



ファッションを通じて 患者さんを笑顔に!



Shironeko Group

トライ式高等学院・白ねこグループ

高校生ボランティア・アワード2023

01 目標



入院生活を明るく過ごしてもらおう

入院生活は患者さんにとって制限が多く、病気や治療に集中する日々が続きます。ファッションは個性を表現する一環であり、着る服によって気分や自己イメージが変わります。入院生活において、患者さんが自分らしさを表現し、楽しむことができる環境を提供します。



衣類廃棄問題に寄与する

衣類廃棄問題に寄与することは、環境保護に重要な役割を果たします。再利用を奨励することで、使用可能な期間を延ばし、資源の節約につながります。



患者さんに社会参画の機会を提供する

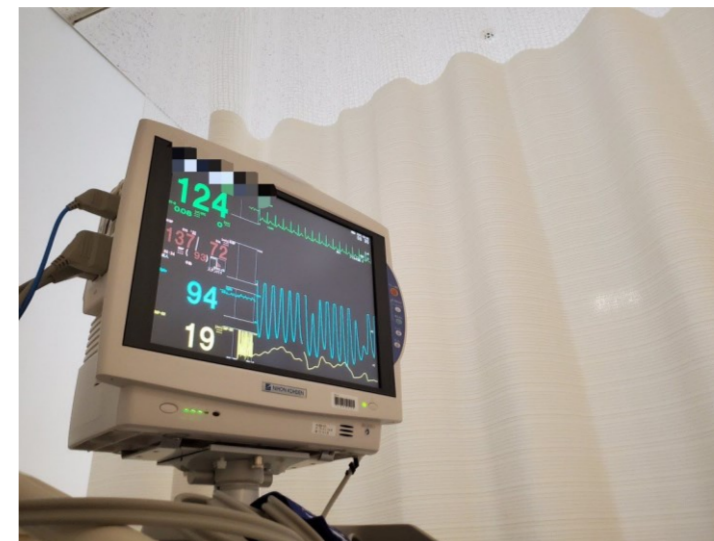
入院期間が長い小児科患者は、病院の環境に閉じこもりがちであり、社会との接触が制限されます。しかし、彼らに社会参画の機会を提供することで、心の活性化、自己肯定感の向上など、さまざまなメリットをもたらします。

02 ターゲット



アパレル企業

廃棄する予定の衣類を提供することで、難しいとされている、企業としてのSDGs活動の第一歩を踏み出すことができます。



小児・思春期患者さん

小児・思春期の入院患者さんであり、特にファッションに興味を持ちそうな思春期の患者さんを対象としています。

03 背景

小児・思春期患者さんが抱える課題

外出が難しい

コロナの影響もあり、院内散歩などの出歩くことが厳しくなっていました。

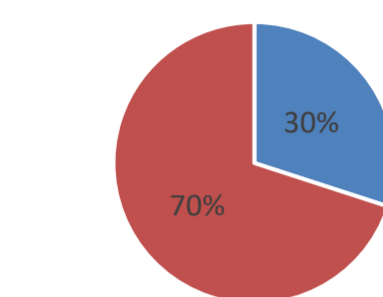
入院生活が画一的

入院生活中の生活サイクルは病院が決めた時間通りに生活しなくてはならないため画一的です。また、画一的なのは入院生活だけではなく、病院で売られている商品もデザイン性がないということも病院への取材でわかりました。

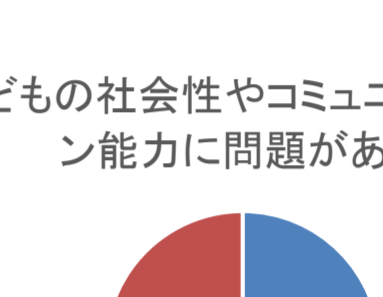
ファッションを楽しめていない

入院生活になると病気を治すことが中心の生活になり、様々なことに制限がかけられます。それによりファッションを楽しみたくても楽しめていない患者さんがいるのではないかと思います。

社会との交流が減少している



子どもの社会的性やコミュニケーション能力に問題がある

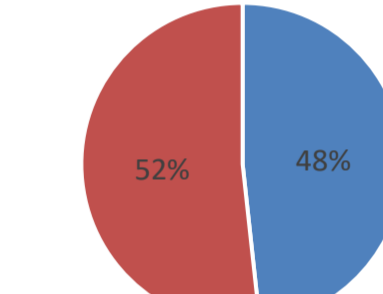


アパレル企業が抱える課題

衣類の廃棄問題

年間29億着が作られて新品ままの15億着が売れ残り、焼却、埋め立てなどの方法で処理されていることを知りました。また、その結果CO2の排出量が石油産業に次いで第2位になっていることも知りました。

年間生産数



使用量

衣類の環境汚染問題

合成繊維の環境負荷はマイクロプラスチックです。衣類を洗濯するときにポリエステルなどの合成繊維で作られた衣類を洗濯することにより、繊維が削れて細かくなったものが海に流れます。1回の洗濯で70万個から120万個のマイクロファイバーが流され、これらの総量は海に流れ着くマイクロプラスチック全体の35%を占めています。このマイクロプラスチックは細かすぎて下水処理場でも処理することができないという現状です。天然繊維の環境負荷は、大量の水の使用が問題とされています。綿の栽培には大量の水が必要で、1kgの綿を作るのに約1万lの水を使用しなければなりません。それにも関わらず、綿生産高上位3カ国は水不足が問題となっているインド、中国、ウズベキスタンが占めています。これまで挙げてきた問題の大きさを服1着ベースでとらえてみると、服1着あたりCO2の排出量は約25.5kg、また水の消費量は約2300L(浴槽約11杯分)にも相当することが算出できました。

国内に供給される衣類のライフサイクルのCO2排出量



国外に供給される衣類によるCO2排出割合

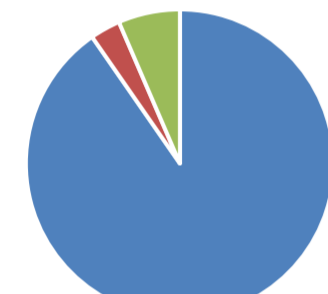
国内に供給される衣類によるCO2排出割合

04 メリット

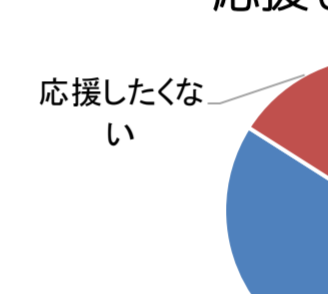
アパレル企業等のメリット

アパレル企業やブランドのメリットはファッション業界の環境問題やSDGsに貢献でき、企業のイメージアップに繋がることです。また、下のグラフにもあるように消費者はSDGsに対して積極的な企業には70%以上の人が好感を持っていることや80%以上の人が応援したいというような結果が出ているのでそれにより新たな顧客やファンなどを作れるのではないかと考えました。捨てる時にかかる産業廃棄コストを削減できます。

SDGsに取り組んでいる企業に対してどのように思いますか？



ものを買う際やサービスを受ける際、その企業がSDGsに取り組んでいたら応援したいですか？



病院のメリット

アパレル企業やブランドのメリットはファッション業界の環境問題やSDGsに貢献でき、企業のイメージアップに繋がることです。また、右のグラフにもあるように消費者はSDGsに対して積極的な企業には70%以上の人が好感を持ったり、80%以上の人が応援したいというような結果が出ているため、新たな顧客やファンなどを作れるのではないかと考えました。4つ目は捨てる時にかかる産業廃棄コストを削減できます。

環境問題に貢献

アパレル業界で廃棄される衣類の数は膨大であり、環境に負荷をかけています。このプロジェクトでは、廃棄される衣類を回収し、寄付することで廃棄削減に貢献します。廃棄される衣類を再利用することで、それらの衣類に新たな意義や価値を見出して、廃棄物の削減に繋がります。

ボランティアコミュニティの形成

現在、当プロジェクトは弊校のメンバー以外に学外のメンバーが5人在籍しています。高校生がボランティアプロジェクトを行う場合学内で行う場合が多いが、当プロジェクトは都内とどまらず都外の学校に在籍メンバーを入れることで地域コミュニティ形成や地域創生に寄与できます。

生徒主体の運営により社会参画が可能に

生徒主体で当プロジェクトで運営することで、それぞれがリーダーシップやチームワーク、問題解決能力、コミュニケーションスキルなど、様々なスキルを身につける機会となります。さらに社会貢献活動に取り組むことは、プロジェクトを通じて社会の問題に目を向け、解決策を考えることにつながり、社会参加の一環となります。

新規性のあるプロジェクトを企画することで...

私たちが行っている当プロジェクトは過去にない新規性のあるプロジェクトです。このような新規性のあるプロジェクトを企画することで、今後の世間で求められるようなゼロから何かを発想する力を養うことができます。

05 プロジェクトの流れ

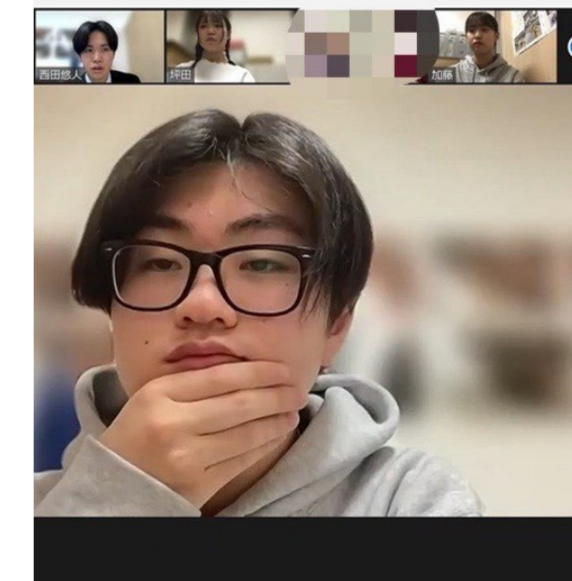
01 衣類の受け取り

店頭やECサイトで売れ残った衣類の回収を行っている企業に提供していただきます。



03 カタログ作成

小児科患者さんが好きな服を選ぶように衣類の種類、サイズなどを載せたカタログを作成します。



05 仕上げ作業

オンラインイベントとくに聞いた患者さんの服の好みの調査を元に、患者さん別に衣類の仕上げを行います。



1週間後

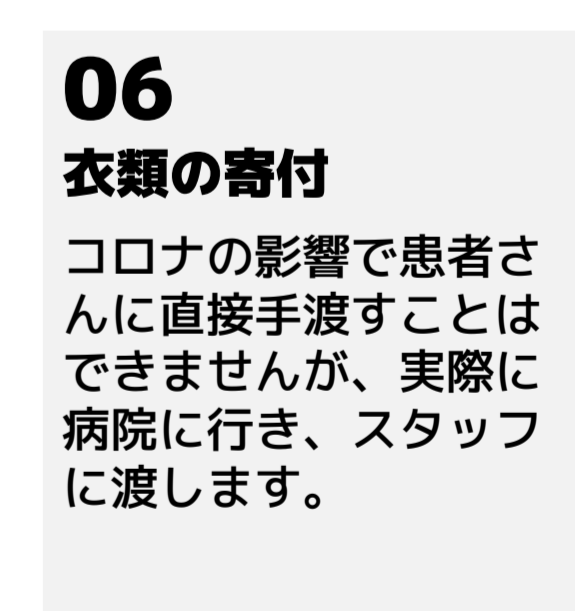
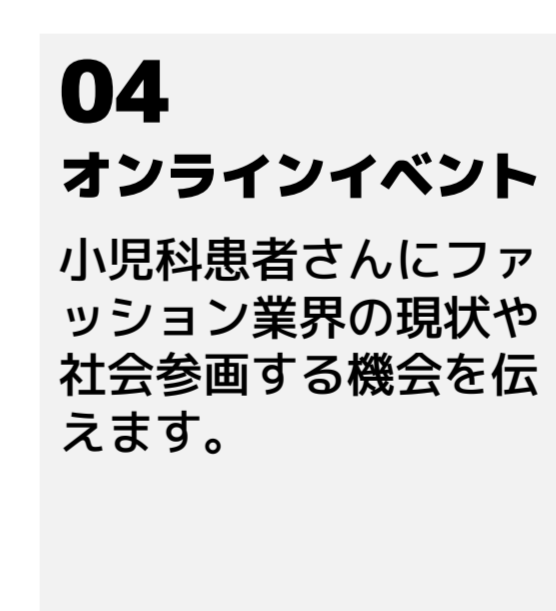
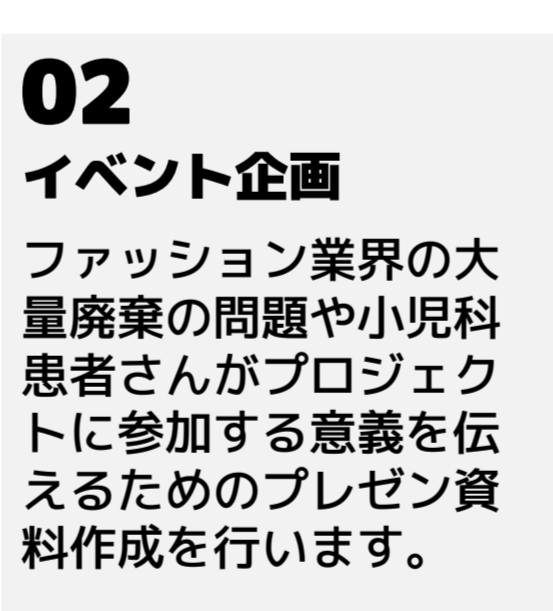
2週間後

3週間後

4週間後

5週間後

6週間後



06 活動報告



01 展示会の参加
東京ビックサイトで行われた医療系の展示会に参加しコロナの影響で変わった医療の現場や最新の設備などについて調査しました。



02 三愛会総合病院の見学
新病院開院に合わせて新しい設備や病棟など見学し、患者さんの過ごし方や入院環境の変化などを調査しました。



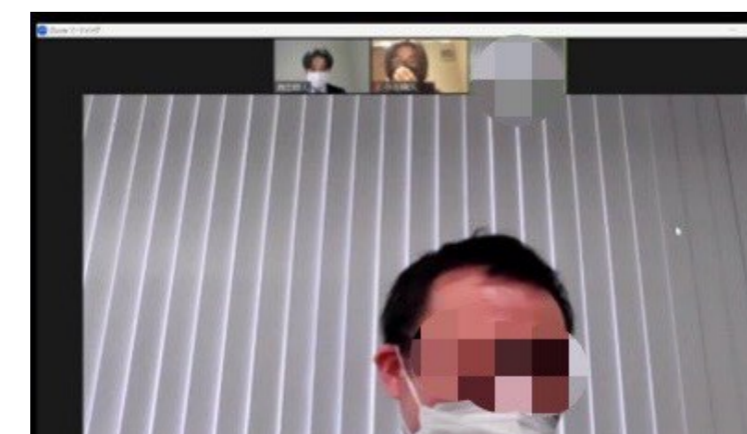
03 千葉大学病院の取材及び見学
一般財団法人同仁会の活動内容、患者さんの入院生活の過ごし方、KISS MY LIFEの導入経緯や導入するときの課題、患者さんの反応などの取材を行いました。



04 病院の見学、話し合い
コロナ前の当病院の活動内容、ボランティア活動の内容、ボランティア事業を行うにあたっての注意点、今後のスケジュールに関して話し合いました。



05 商工会議所での話し合い
法律問題が懸念されたため東京商工会議所で弁護士にボランティアプロジェクトに古物商及び産業廃棄物運搬許可の申請が必要か相談した。



06 医療グループと話し合い
一般社会と医療業界のコロナによる影響の違いや小児科患者さんの現状、先方で行っているプロジェクトなどを話し合いました。



07 過去の類似事例を取材
過去の類似事例が始まった課題、利用者からの反応直前、取扱病院先を拡大した方法、病院内の売店の制約や基準の回避方法などを取材しました。



08 ファッション展示会の視察
東京ビックサイトで行われたファッション展示会に参加し、サステナブルファッションや、古着回収の方法などについて調査しました。

07 展望

今後、当プロジェクトは全国の病院に拡大し、ターゲットも小児科患者から患者さん全体に広げていく予定です。また、病院だけでなく、お年寄りの施設などの医療業界全体で実施したいと考えています。広報活動やメディアへの露出を通じてプロジェクトを拡大させ、アパレル企業など多くの企業にプロジェクトへの協賛や衣類の直接提供などを募り、社会貢献活動への参画を呼びかけます。これにより、社会全体に衣類廃棄問題や持続可能なファッションへの関心も高めます。他にも、NPO法人を設立させることも行う予定です。これによって社会的な信頼性を得ることができ、企業から信頼されやすくなります。さらに、信頼性が上がることで寄付や資金調達が得やすくなります。

08 団体紹介



当団体は、学生のみ運営されている任意団体です。10人から成り立ち、毎週定例のミーティングを実施しています。メンバーは運営、アパレル、広報、病院などの担当に分かれ、それぞれの専門領域で活動を展開しています。

団体概要
設立：2022年11月30日
形態：任意団体(2023年NPO法人化予定)
人数：10人
メンバー：
西田悠人、小川璃久、下田哲也、加藤沙季、坪田真奈、澤村安純、小林千祐、西出帆花、貝本凜、金子莉奈

定例MTGの様子(他3人在籍)